

## 独標登山への想い

青柳 和比古

42年前の集団登山に親からは「参加したらいいじゃないか」と言われた。しかしこの時、郷友会のキャンプ、常念岳登山があり参加しませんでした。キャンプから帰宅直後に、3時のNHKニュースで「深志高校集団登山の遭難」を知ったときの気持ちは忘れることができません。それ以降36年間、登山から遠ざかっていましたが、50代後半になりやに残した事は何かと考えるといつも独標のことが浮かんできました。4年前より単身赴任の甲府で山梨県内の簡単な山へ登山を始め、独標への想いが強くなってきた折、追悼登山の連絡をもらい全てに優先して行くんだと決め参加させて貰いました。42年経過して初めて独標へ行き慰霊をすることが出来ました。しかし、当日は独標まで雨が降り霧がいつぱいで「なぜもっと早く来てくれなかったの」と言われているようにも感じました。自分としては一つの区切りが出来たと思い、このような機会を計画していただいたことに感謝しています。機会があれば西穂高岳まで登り下山途中の独標を見つめ直してみたいと思います。

